

第4回島田市総合計画審議会 会議要録

1 日時

令和3年2月19日（金）19:00~20:45

2 場所

島田市役所 4階 第三委員会室南・北

3 出席者

委員：池上委員、磯崎委員、伊藤委員、大池委員、小栗委員、河村委員、北川委員、
クラーク委員、塚本委員、中根委員、萩原委員、原委員、松本委員、村田委員、
渡瀬委員

（五十音順）

市側：牛尾副市長

事務局：鈴木市長戦略部長、駒形戦略推進課長、興津係長、永田主事、酒井主事、榊原主事、
服部主事

傍聴者 1人

4 内容

（開会）

（会長あいさつ）

- ・私たちが前回集まったのは昨年8月である。それから約半年が経過し、何を議論したのか忘れてしまっている方も多いのではないか。先日事務局の方々が大学へ来て打合せをする中で、かなり忘れていた部分が多かったと実感した。
- ・今年度私は島田市の他に湖西市の総合計画にも関わっている。湖西市は1月に影山市長へ答申できた。影山市長がずっと唱えていた「職住近接」、住まいと勤務地が一緒になる、つまり湖西市で働いている人は湖西市に住んで欲しいということが明確な柱になった総合計画ができた。
- ・湖西市では「職住近接」というメインテーマが物語るように、極めて産業界の意向・産業界の声が総合計画の会議において強かった。それに対して、島田市の場合は非常に多様な立場で御参加いただいている。農業をやっている方もいれば民宿を経営している方もいる。様々な分野を代表してここにいる方々に市民の代表として意見を聞くことができると思っている。
- ・本日は資料がたくさんあるが、ポイントになるのは資料9である。後期基本計画でこんなことをやっていきたいということが示されている。赤い文字で書いてある箇所が前期計画から変更になっているところである。赤い文字の箇所についてこれでよいのか、こんな点が落ちているのではないかと、あるいはこれは島田市に必要ななど後期基本計画に入ってくる新しいポイントについてたくさん時間をとってお話ししていきたいと思う。
- ・事務局にも全ての資料を丹念に説明していると説明だけで審議会が終わってしまうため、メ

リハリをつけて重要なポイントである資料9に多くの時間が割けるようお願いした。半年ぶりのディスカッションだが、時間を有効に使っていきたい。

(報告)

(1) 第2次島田市総合計画後期基本計画策定方針の確定について

資料1及び付属資料1に基づき、榊原主事より説明

【質疑応答】

・特に意見なし

(議題)

(1) 基本構想について（基本理念、将来像、土地利用の方向、政策分野）

資料2～6に基づき、服部主事より説明

【質疑応答】

A 委員：追加項目の2つ目に記載されている「SDGs」についてよくわからないので教えて欲しい。

事務局：SDGsは2015年9月の国連サミットで採択された持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の開発目標。17の目標と169のターゲットの達成を目指し、開発途上国だけでなく先進国も含めたすべての国が取り組むべき普遍的な目標ということが定義となっている。

例えば、「エネルギー」や「ジェンダー」、「貧困」、「消費と生産」などの目標が掲げられており、全世界でその目標達成に向かって動き始めている。また、国だけでなく、地方公共団体、民間企業、市民一人ひとりが持続可能な社会の実現に向けて取り組もうという気運が高まっている。

会長：SDGsの17の目標は「貧困」「飢餓」「保健」「教育」「ジェンダー」「水・衛生」「エネルギー」「経済成長と雇用」「インフラ・産業化・イノベーション」「不平等」「持続可能な都市」「持続可能な消費と生産」「気候変動」「海洋資源」「陸上資源」「平和」「実施手段」である。主に開発という言葉は開発途上国に使われることが多かった。SDGsは開発目標という言葉を使っているが、先進国も実現に向けて努力しなければならないこともあるということで日本も含め先進国でもSDGsについて取り組んでいる。

例えば水関係の会社が、「安全な水とトイレを世界中に」について取り組んでいるということがある。17の目標全てではなく、自分たちの関係する活動を足場として貢献しているとPRしていることが多いと感じる。ポイントは今までは開発途上国だけ取り組んでいたものが、先進国も一緒に取り組むことになったことである。

B 委員：追加項目の「デジタルトランスフォーメーション(DX)」について記載されているが、「市民サービスを便利に」「行政経営をスマートに」「地域産業を元気に」の3つについて、それぞれ市民サービスは市役所が提供する住民に対するサービス、行政経営は市役所内の仕事の仕方、デジタルに関係する産業の育成を示

していると思うが、それに加えて「デジタルの力で市民生活の質を向上する」ということも記載した方がいいのでは。

会 長：私自身も全く同じことを感じていた。どうしても市のレベルでDXというインターネットで証明書がとれるなどで終わってしまう。御指摘のあったとおり、市民レベルで日々の暮らしがどのように変わっていくか、便利な方向になるのか効率的な方向になるのかということを市民が理解・納得できなければDXの本当の意味が伝わらないのではと思う。

事 務 局：今記載している3つは当市が令和元年に発信した「デジタル変革宣言」に掲げている3つの分野となっている。この3つの分野を推進することで「市民生活の質が向上する」というところが一番上の目標になってくると認識している。この後説明する資料9の後期基本計画の柱部分で「デジタルの力を活用した豊かな生活を実感できるまちづくり」と示しており、同じようなことを表現したいと考えている。

会 長：基本計画部分に示しているという説明であったが、基本構想部分にも「市民生活の質を向上する」というような文言を入れることは可能か。

事 務 局：資料5の新たに追加する将来像に込めた想いの次のページに将来像を実現するための役割を市民の立場、事業者の立場、行政の立場の3分野で示している。御指摘のとおり、市民の視点もDXの分野で必要なことなので、内容について再度検討したいと思う。

(2) 後期基本計画の体系について（施策の柱、施策と内容の検討）について

資料7～9に基づき、興津係長より説明

【質疑応答】（資料9について）

C 委 員：13ページの611「コンパクト・プラス・ネットワーク」という表現がわからない市民もいるのではないかと。「コンパクト・プラス・ネットワーク」をもっとわかりやすい表現にできないか。

事 務 局：短くわかりやすい表現（短い日本語）という点には浮かばないが、拠点に集まって居住しそれぞれのかたまりを公共交通などでつなぐというのがコンパクト・プラス・ネットワークの考え方となっている。

会 長：「集住と連携」のようなイメージだろうか。行政用語としてはかなり広がっているが、やはりイメージが湧きづらいので言葉を補足する必要があると思う。

D 委 員：2ページの140「弱い立場の人を支え合う」から「支え合い、いきいきと幸せに暮らす」に変更することについて適切だと思う。「弱い立場の人を支え合う」は介護、医療、NPO等が弱い方々を支える地域包括ケアシステムという考え方からきている。今は地域共生社会の実現を目指すというその地域に住む人たちで支え合う考え方に変わっている。

もし可能であれば「互いに」という文言を加えて欲しい。

事 務 局：「支え合い、互いにいきいきと幸せに暮らす」ということでよいか。

D 委員：「互いに支え合い、いきいきと幸せに暮らす」の方がわかりやすいと思う。

事務局：了解した。変更する方向で検討していきたい。

E 委員：島田市のまちなかを見ると区画整理は本通5丁目で終わっている。みんなが住みやすいまちには景観や防災の観点も大切。本通6丁目、7丁目のようなごちゃごちゃしているところも手を付けていかなければいけないと思う。長いスパンがかかると思うが本通6丁目、7丁目の区画整理や再開発も計画の中に位置づけられないか。

事務局：資料2の30、31ページに市街地整備・開発等の動向として（1）土地区画整理事業、（2）市街地再開発事業について載せてある。現在我々で把握している中では区画整理の計画はない。いわゆる人口減少が進む中で土地の価格も下がっている状況では土地区画整理事業や市街地再開発事業は難しいが、意見があったということは担当課に伝えさせてもらう。

F 委員：7ページの観光について新しく再編や分割しているが、その内容が市外や県外に向けた施策がメインになっているように思う。観光というのは地域の魅力を磨いていくことで、地域の住民がこの場所に誇りを持って暮らせるようになることが大きな目的ではないかと考える。現計画にある「地域の活性化」というワードは残してほしい。

事務局：「地域の活性化」というワードを入れることについて検討したい。

G 委員：7ページの342「農地を集約・集積し、生産体制を強化します」について大規模農家だけでなく小規模農家も非常に大切だと考えている。大規模農家では機械設備を動かすエネルギーを大量消費するし、化学肥料もたくさん使用するので環境負荷がかかる。最近では若い人たちの間で「不耕起栽培」という農法が盛んになってきている。「不耕起栽培」で生産量が3割増え、労働時間が45%削減できたと聞く。

大規模農家づくりだけでなく、小規模農家も大事にしていくべき。

事務局：決して小規模農家を切り捨てていくということではない。小柱の名称はこのままにさせてもらいたいが、中身の書き込みでフォローしていけたらと考えている。

H 委員：6、7ページについて今回は細分化して、施策がより具体的になってよいと思う。

表現の中で352「観光の魅力を全国に発信します」は「観光地の魅力」又は「島田市の魅力」ではないのか。

また、「SDGs」や「Society5.0」、「ニューノーマル」など一般的でない、横文字が多いと感じた。できるだけ新しい言葉を使わずに表現してもらいたい。

事務局：横文字が多くてわかりにくいということはこれまでの総合計画審議会でも同じ

意見をいただいている。しっかりと補足事項として書き込んでいくことで対応していく。また、わかりやすい表現も必要だと思うので工夫していきたい。
観光については「観光地」のように言葉を再検討する。

I 委員：DX推進について、DXを成功させるためには2種類の人の対策が必要。パソコンやスマートフォンを使用している人は生活がしやすくなるが、使用していない人の生活は変わらないし難しくなる。DXを推進すると同時に高齢者などのデジタル機器を使用していない人向けの研修などトレーニングが必要だと思う。それらの項目も含めて欲しい。

会長：いわゆるデジタルデバイドの問題である。

事務局：17ページの市民カテゴリの7-2 高齢者向けスマートフォン講座を記載している。今年度から高齢者向けのスマートフォン講座を実施している。このような取組で苦手な方のフォローをしていきたいと考えている。

会長：スマートフォン講座などを実施することで、どんな楽しい人生になるのかということを知ってもらうことはとても大事だと思う。

B 委員：3ページの214「誰もが安心して子育てできる環境を整えます」という名称が全体を包含していて大きすぎるので検討したほうがいいと思う。また、214を分割したことにより、212、213、214の主要な取組の差がわかりにくくなっている。どういった区分で分けているか整理した方がいい。

4ページの236「子供にとって望ましい教育環境を実現させます」という名称も全体を包含しており大きすぎるので「学校環境」の方がよいのではないかな。

事務局：現時点でいい案は浮かばないが持ち帰って検討したい。

J 委員：やはり「コンパクト・プラス・ネットワーク」はわかりにくい。

12ページの532「島田を好きな人を増やします」はすごくいい言葉だなと思うが11ページの520「島田を知り、好きになってもらう」と若干似ている。

会長：個々のパートでは良いが、階層性を考えると似ているのではないかと指摘がある。

事務局：こちらでも再検討させてもらいたい。

L 委員：国際交流の項目を残していただいて大変ありがたい。子ども達が新しい視点を持つために海外の都市と交流することはとても大きなこと。海外の人達とふれあうことでその人の生き方も変わってくる。ぜひ続けて欲しい。

4ページの232「デジタル社会に対応できる児童・生徒を育てます」の主要な取組がプログラミング中心になっている。市内の中学校ではZoomを使ってモンゴルや中国の生徒と交流している。デジタル化で海外の人と交流できる楽しさがあることを教える取組があるといいと思った。

事務局：主要な取組にデジタルを活用した交流を書き込んでいきたい。

- M 委員：新設された項目が時代に合ったもので具体的でわかりやすいと思った。7ページの観光の分野や12ページの「島田を好きな人を増やします」は大切なことだと思う。また、15ページの712「地域主体のまちづくりを推進します」の項目について若い人の力をどう生かしていくか人材の育成ということが重要になると感じた。
- 事務局：712に若い人の力や人材の育成という言葉を書き込んでいくことで対応したいと思う。
- N 委員：7ページの344、352について魅力を発信するならば「世界及び全国へ発信」という文言の方がいいと思う。
情報格差が予想外のところから発生しこれから大きくなっていく。そこで孤立する人も出てくるが、どうリカバリーするかということについて文言で入れた方がいいと思う。
- 事務局：誰一人取り残さないということはSDGsにも掲げられており、しっかりと入れていきたい。また「世界及び全国に向けて発信」ということは世界まで書き込めるかわからないがしっかりと検討していきたい。
- O 委員：7ページの344について、お茶だけでは勝てないから川根の人が苦労している。しかし、「世界」という文言が入ればまだチャンスはあるのではと思った。いちごに合うお茶やみかんに合うお茶などいろいろな農作物とのコラボをしていけばまだ売れると感じる。
今若い人の間でアニメがとても人気がある。沼津市ではアニメ「ラブライブサンシャイン」の舞台となり何億もの経済効果が出ている。島田市も「ゆるキャン△」の舞台になっていたり「Sexy Zoneの松島聡さん」の出身地であったりするのでそういうことをどんどん使っていけばいいと思う。個人ではなかなか使えないものなので、市としてまちおこしにアニメや有名人を積極的に活用して行ってほしい。
- 会長：いわゆるOpportunity（オポチュニティ）、SWOT分析という機会である。島田市の外で島田市に注目してもらえるような機会を作ってくれた。それを何とか生かして市のプロモーションのみならず農産物の販売や関係人口につなげていけないか。
- 事務局：「ゆるキャン△」は毎週火曜日の深夜に放送されており、エンドロールの協力は静岡県の文化観光部となっている。県が上手く山梨県とタイアップしてやっている。島田市では川根が舞台になったと聞いている。市単位でやることは難しいと思うが、県から情報を集めることも必要かと思う。少しお時間をいただきたい。
- 会長：チャンスを逃すのはもったいない。もっと民間の貪欲な姿勢を見習わなくてはいけない。

A 委員：私も有名人を積極的に使うことはまちおこしにいいと思う。これから観光がカギになってくる。例えば、川越し街道では文化財があるためイベントがやりづらかった。今後は事業やイベントがやりやすいよう規制を緩和していけばいいと思う。

昨年 KADODE OOIGAWA やおおいなびがオープンしたが、今の経営状態がわかれば教えてほしい。

牛尾副市長：知りえることだけ簡潔にお話しすると、スタートダッシュは良かったがやはりコロナの影響を受けている。土日は賑わっているが平日の来客が減っているとの報告は受けている。ランドマークとして目指す場所ができたので、大井川鐵道を活用して大井川流域にいかにも人を流し込むかということを経営も一緒に取り組んでいく姿勢である。

会長：最後に私から 10 ページの 448「多文化共生」が入ったことはとても良かったと思う。外国人の受け入れに関しては出入国在留管理庁というものが昨年できた。私はその有識者会議の委員になり内部の方々と話をした。これまでは在留の管理だけを考えていたが、これからは共生ということを真剣に考えなければいけない状況になっているという認識を国も持っている。主要な取組の中に受入社会、つまり日本人たちに対する多文化共生の重要さの意識啓発は土壌を作る意味では大事だと思う。交流の機会などは関心のある人は参加するが関心のない人は参加しない。日常であまり多文化共生に関心がない、接点のない人たちにもこんな人たちがいるのか、こんな人たちがいるからポジティブな影響があるということを知ってもらい取組を含めてもらえたらと思う。

会長：資料 9 についてたくさんの貴重な意見をいただいた。すぐに修正できることもあれば、持ち帰って検討したり、関連部署と調整することも必要かと思う。いただいた意見についてはしっかりと受け止めて検討していきたい。

(その他)

興津係長より次回審議会について案内。

第 5 回総合計画審議会開催は 6 月頃を予定。

以上

20 : 45 会議終了